資料1

芦屋港ボートパーク利用料金に係る意見・回答書

1　意見聴取期間　：　令和7年2月12日（火）～2月21日（金）

2　意見提出者数　：　20名（内　意見あり3名）

番号	意　見	回　答
1	係留料金が高すぎると思います。近隣の類似施設の料金との均衡を考慮したとありますが、脇田が1500円／mに対して1800円／mと300円高くなっている。専門分科会では、同様の考え方で、脇田が1320円／mに対して1250円／mと若干安く料金設定をした。	専門分科会で計算した支出項目を基に、現時点での支出見込による単価計算で見直しを行いました。その上で、脇田フィッシャリーナやその他近隣係留施設との中間程度の料金設定であり、近隣係留施設よりもサービスレベルを上げたこともあり、係留料金の上限額として当該料金で設定しました。 ただし、条例上の上限額としては1,800円／mとしますが、指定管理者との協議を行い、事業計画において採算性が見込める場合は、脇田フィッシャリーナと同程度の料金での設定について協議を行います。
2	支出予測に関して、専門分科会の予測と比べ多くの科目で2倍から10倍高くなっている。例えば、電気代が約4倍、消耗品費が約4倍、委託費が約10倍高くなっている。物価高ではあるが、このように高くなる説明が必要。	現在、「係留施設」と「魚釣施設」の2つの施設を「芦屋港ボートパーク」として、一体管理を行うよう条例案を作成しています。このため、支出経費には魚釣施設に必要な経費も追加されたことから、支出項目によっては増加しています。光熱水費については給水・給電設備の設置が追加されたことから増額となっています。また、委託料については、当初検討時は維持管理費の割合に応じて試算していましたが、今回管理に必要な経費を改めて試算したことにより増額となっています（駐車場管理業務やホームページ製作業務など）。
3	資料1の《参考》の①専用利用の表において、芦屋ボートパークの月額が11,880円となっているが、10,800円の間違いではないか。1,980円／mになる。	1,800円に消費税額を乗じた計算となります。（1,800円×6m×1.1＝11,880円）
4	利用予測隻数について： 　アンケート未回答者も回答者と同じ割合で芦屋港に移動するという前提で利用隻数を予測しているのは甘いのではないか。遠賀川河口域における係留船舶数はH22年よりR5年の間に775隻から131隻に減少しているが、未回答者の中には年間20万円前後の費用が発生するのであればこの機会に廃船するという人がかなり含まれているように思えるのだが。	利用予測隻数については、これまでの専門分科会での検討方法を踏襲したうえで、直近のアンケート数値により試算しています。お見込みのとおり、不法係留船の中には利用料金によって廃船を考える可能性もあるため、利用予測隻数の最小値を算出しています。

番号	意　見	回　答
5	収支予測について： 　7割係留から満隻の収支予測がされているが、アンケートの結果芦屋港に移動すると答えた人は49名しかいないことを考慮すれば、5割（84隻）程度の係留で採算を考える必要がないか。	利用予測隻数については、アンケート未回答者もいるため、割合で試算しています。このため、収支予測も7割係留からの試算としています。
6	人件費の削減について： 　人件費を半減させる方策を考えておく必要があると思う。2名分の人件費が計上されているが、2名の稼働率、業務内容をどう設定されているのか？芦屋漁協などに業務を委託することで人件費を削減することは考えられないか？	職員の業務としては、日々の維持管理とは別にビジターバースの管理、料金の徴収などの日常業務を想定している。これについては、過去の専門分科会の中でも議論されましたが、通常の係留船受付業務にもビジターバースの管理や海釣施設とのやり取りの可能性などがあると想定した場合、最低でも3人でローテーションをする必要があるとの意見もあり、常時2名体制での試算としています。ただし、指定管理制度の目的にあるように、可能な限りの経費削減について指定管理者と協議を進めていくことを想定しています。
7	使用料金について： 　近隣の類似施設にないサービス（付加価値）は、どのようなことを考えていますか？脇田の料金（市外居住者価格）、市内居住者はもっと安いのでは？脇田の料金と同額にすべきと考えます。 不法係留船対策を徹底的にやるべきです。	近隣係留施設にない特徴としては、全バースに給水設備を設置するほか、一部には給電設備を設置します。また、最大14m級の船舶も停泊可能となっています。 係留料金については、上限額の範囲内で脇田フィッシャリーナと同程度の料金設定が可能か、指定管理者と協議のうえ決めてまいります。 また、不法係留船対策については、遠賀川河川事務所と連携して進めてまいります。